

生徒の明日につなげる

新課程

全面実施年の

指導の振り返り

新学習指導要領が全面実施されて1年が経った。言語活動、理数教育、外国語教育それぞれの充実を改善の柱として、生きる力の育成や知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成を目指し、指導する中で、現場の教師はどのような手応えと課題を感じているのか。

今号は、新課程の生徒の現状を把握しつつ、社会や大学入試で求められる力の育成といった、生徒の明日につながる視点で、新課程全面実施年の指導を振り返る。



新課程実施に伴い、2013年度の指導で工夫したことや新たに試みた取り組みを教えてください。

◎授業中に自分の意見を述べさせたり、考えを書かせたりする時間を設けるなど、意識的に言語活動を工夫している。

(埼玉県・国語)

◎基礎・基本をことさら強調する。同じ内容を違う教材で反復練習させる。

(愛知県・国語)

◎生徒全員が参加できるように発問の仕方を工夫した。小グループでの学び合いを行う時間を確保した。

(三重県・国語)

◎進度を調整し、授業形態を変化させ、発問を今まで以上に多くして、学習の定着度合いを生徒全員で確かめながら進んだ。

(静岡県・数学)

◎生徒に発表させたり、自分の意見や考えを他の生徒に分かってもらえるまで説明させたりするなどして、数学的技能だけでなく、表現力や積極性といった社会に貢献できる力を、数学を通して身に付けさせる指導を取り入れている。

(愛知県・数学)

◎「コミュニケーション英語基礎」を1年次で履修させて、基礎・基本の定着を徹底した。授業では、出来るだけ簡単な英語を多く使い、教師と生徒、生徒同士が相互にコミュニケーションできるようにしている。

(兵庫県・英語)

◎言語活動を充実させるために、発表や協調学習を取り入れた。

(山形県・地歴公民)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは2013年12月にウェブとファクスで実施。有効回答数は62

本号のテーマ

新課程全面実施年の指導を振り返り、
今後の指導のあり方を考える

新課程の生徒の“今”を把握する

課題整理 [P.6~9]

- 学力の多層化が一層進む。数学では成績下位層が増加傾向に。
 - 成績下位層では基礎・基本の定着が課題。
特に、2015年度入試で新課程入試が実施される数学・理科は、基礎・基本の定着が急務に。
 - 成績上位層も含め、全体的な課題となるのが表現力の育成。
そのために充実が求められているのが言語活動だが、その導入に困難を感じる教員の声が少ない。
- ※スタディーサポートや進研模試の結果分析、読者モニターアンケートの声などの結果より

生徒の“明日”につなぐ視点で新課程全面実施年を振り返り、
今後の指導を考える

視点1 数学・理科の新課程入試
センター試験試作問題と新課程生の現状から考える
理数指導の今後の展望

教師インタビュー [P.10~19]

数学 [P.10~13]
新分野「データの分析」の指導方針の再考と、
読解力が必要とされる問題への対応が必要



佐賀県立
致遠館中学・高校
山崎 俊明



佐賀県立
致遠館中学・高校
古川 裕一

物理 [P.14~15]
授業進度を保ちつつ、物理現象を正しくイメージし、
本質的な理解が出来る指導の工夫を



福岡県立
福岡高校
木村 恒昭

化学 [P.16~17]
化学的な現象への正確な理解、異分野を関連付けたり、
イメージを膨らませたりする力を養う



広島県立
広島国泰寺高校
堀 隆典

生物 [P.18~19]
個々の知識の定着と共に、異分野を横断して、
生命現象全体を俯瞰できる力を育成する



兵庫県立
小野高校
稲葉 浩介

視点2 言語活動の充実
先進校の取り組みから考える「言語活動」の成果と展望

座談会 [P.20~25]



石川県立
金沢錦丘高校
談議所 啓輔



広島県立
忠海高校
有木 克明



ベネッセ教育総合研究所
高等教育研究室
主任研究員
樋口 健